

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	スプリング		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 4日		2025年 3月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	2025年 3月 3日		2025年 3月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	心理士が配置されているので、子どもが学校での出来事や家庭での様子を大人に話せるように、登園時に明るく挨拶をして、その反応を複数の職員が汲み取り、集団活動に入るか、心理士との個別の時間を持つかを選択をすることができます。	集団活動や小集団、個別での関わりの時間を取っています。大人と関わる時間を多く持つ事で、安心して自分の気持ちを話せる環境を作っています。大人との信頼関係を構築出来るように、まず1人の大人と関わる時間を大切にしています。	1人の大人との関係の時間を持った後に、他の大人との関係にも繋げて安心感を般化するように、子どものアセスメントを職員全体で共有していきます。会議等、子どものニーズ困り感を適切に捉えられるように、個々の職員が密に関わっていきます。
2	家族支援を行っています。保護者との面談や日々の会話を通して、家庭での困り感や不安な事を聞きとり、必要な支援に繋がっています。相談室、ヘルパー、ショート等の支援に繋がった際、家族が抱えている不安感を軽減し、安心して暮らせるように、関わっている関係機関と情報共有を細目に図っています。	電話やメールで日々の療育の様子を伝えながら、保護者が親しみを持って話しが出来る様に保護者との会話の時間を多く持てるように関わっています。また、聞き取った家庭での話をクラス職員と共有しています。	保護者に対して必要な支援を話し、繋げていく過程で、事業所以外の支援に繋がりにくい家庭については、計画を立てPDCAサイクルを用いてスモールステップで関わっていきます。
3	地域の学校と連携を図って、学校支援を行っています。学校での子どもと直直に関わったり、観察することで、子どもの困り感や不安をすぐに解決することができています。また、事業所に登園した時に、学校での事を話しながら緊張感や不安感を話せるように、安心した環境作りをしています。	学校支援を行う際、学校の子どもたちへの関わり方を尊重しています。また、学校に対して、子どもの心の持ちようや挑戦しながら学校生活を送っていることなど子どものアセスメントを伝えています。	今後、学校との情報共有を図る機会を計画立てていきます。会議等が実施で来た際、学校、事業所双方での子どもの様子を伝え合っていきます。共有した情報を元に事業所では、適切な支援を再度見直していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	戸外活動をする時に、地域の公園や公共の場では地域の子どもたちと一緒に活動する事もありますが、地域の他の子どもたちと交流する機会が少ないです。	感染症の流行や、戸外活動以外の室内活動を設定した際、交流する機会が持ちにくく、地域での交流に積極的なれない面があります。	地域の公園等では、子どもたちが知っている友達がいる時に遊具で遊んだり、グラウンドでボールゲームを一緒にするなどしながら、交流の場面を多く持てるように活動内容を工夫していきます。
2			
3			